

高山中学校 校内研修だより

No. 1 佐藤先生
10/20(木) 5校時
3-A 英語

「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」
～道徳の時間における話し合い活動のさらなる充実を通して～

10/20(木)に一人一授業として授業公開を行っていただきました。公開していただいた佐藤先生、参観していただいた先生方ありがとうございました。

本時のわらい

災害から身を守るためにどんなことが必要だと思うかを理由を含めて 15 語程度を目標に英語で書くことができる。

校内研修との関わり

生徒同士で作品を見合い、アドバイスし合ったり分からないところを聞きあったりしてより確かな表現を吟味させることで、生徒の表現力を高める。

授業の展開

	学習活動と内容	時間	学習活動への支援・留意点 (○)
導入	1. 単語・基本文確認シートを使って、復習をする。	5分	○活動時間を設定し、メリハリをつけて進められるようにする。
	2. Unit 4 の基本文を復習する。	6分	○本時の中心となる学習活動で使えるようにするための一助とする。 ○ペアで音読の確認をさせることで、授業を活気づけたりお互いに学習したりしている雰囲気を作る。
展開	3. 本時のめあてをつかみ、見通しをもつ。	1分	
	災害から身を守るためにどんなことが必要だと思うか、理由を含めて 15 語以上の英語で書く。		
	4. Unit 4 の教科書内容を復習したり、先日のプリントの「災害の記憶を引き継いでいくために私たちにできることは何か。」という問いに対する生徒の答えを見たりする。	8分	○本時の中心となる学習活動の際に、アイデアを出せるようにするための一助とする。 ○本時の学習と関連することを事前に学習しておくことで、本時の活動を円滑に行えるようにする。
	5. 災害から身を守るために必要だと思うことを理由を含めて 15 語程度を目標に書く。 【表れてほしい具体的な姿】 ・ It is important for us to remember disasters. We can run away from disasters. ・ We have to tell about danger of disasters. We can save our lives from it.	28分	○どんな表現が使えるか聞き、板書することで生徒が容易に文を書けるようにする。 ○生徒が英文を書く際の 1 つのよりどころとなるようモデル文を示す。 ○辞書を使わせることで、生徒の自発的な学習を促す。 ○生徒同士で作品を、アドバイスし合ったり分からないところを聞きあったりする活動を設定し、より確かな表現で書かれた作品を完成できるようにする。 ○話し合いが進んでいない生徒たちに声をかけたり、生徒の話し合いの内容に補足を加えたりする。 ○書き終えた生徒には、友達の作品を見て思ったことを英語で書くよう促す。
終末	6. 本時を振り返る。また、次時の連絡を聞く。	2分	○振り返りをさせ、今後の学習意欲につなげる。 ○次時の連絡をすることで、見通しを持って学習に臨めるようにする。

参観者より

よかったところ（達成できたところなど）

本時のねらいに関して

○前時までの復習がスムーズだったので、ねらいに向けての活動が入りやすかった。

- 災害から身を守るために必要だと思うことを一人一人が考えられるように、模造紙に例示していたため、生徒も英作文に取り組んでいた。
- 20語以上の英語で書くことができるように、例文を提示していたこと。

話し合い活動に関して

○4～5名の班にして、分からない所を教え合う活動は、生徒間でよく話し合えて、間違いを修正することができていた。

その他

- 前時までの復習がテンポよく行われていたので、考える時間、相談する時間が十分とることができた。
- 本時のめあて「災害から身を守るために必要だと思うことを理由を含めて15語以上の英語で書こう」はかなりレベルの高い目標であったかと思う。上位の生徒だけでなく、中位～下位の生徒も目標を達成できるようにするための支援としての手立てを個に応じて準備できるとよい。

疑問に思ったこと・改善したい点など



●生徒に例示を読ませるなど生徒主体の活動を増やせるとよい。

●I think it's important to
(necessary)

の構文が for us が途中に入っていたため分かりづらい生徒が見られた。
基本構文について文法的指導も増やせるとよいのでは。

●学力差があるので、各班に必ずリーダー的になる生徒が必要である。班の組み合わせを効率的に話し合い活動ができるメンバーで構成する工夫が必要である。

